

CASBEE-建築(新築)2016年版  
海上保安学校総合実習棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>					<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.4</b>	0.15	<b>3.5</b>	1.00
1.1 室内騒音レベル	界壁は上階スラブ下に達する	4.0	0.48	4.0	0.50
1.2 遮音		3.0	0.48	3.0	0.50
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.83	3.0	0.30
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.07	3.0	0.30
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.05	3.0	0.20
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.05	3.0	0.20
1.3 吸音		3.0	0.05		-
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50
2.1.1 室温		3.0	0.62	3.0	0.63
2.1.2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	0.38
2.1.3 ゾーン別制御性			-		-
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.1</b>	0.25	<b>3.9</b>	1.00
3.1 昼光利用		3.4	0.30	4.0	0.30
3.1.1 昼光率		3.0	0.60	3.0	0.50
3.1.2 方位別開口	全方位に窓配置		-	5.0	0.30
3.1.3 昼光利用設備	ガラス窓からの直接採光	4.0	0.40	5.0	0.20
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30
3.2.1 昼光制御	ブラインドにより制御	3.0	1.00	4.0	1.00
3.3 照度	学習室には個別机に手元照明設置	3.0	0.15	5.0	0.15
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00
4.1 発生源対策		3.0	0.58	3.0	0.63
4.1.1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00
4.2 換気		3.0	0.38	3.0	0.38
4.2.1 換気量		3.0	0.46	3.0	0.33
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.08	3.0	0.33
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.46	3.0	0.33
4.3 運用管理		3.0	0.05		-
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50		-
4.3.2 喫煙の制御		3.0	0.50		-
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.6</b>	0.40	<b>3.6</b>	1.00
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60
1.1.1 広さ・収納性			-		-
1.1.2 高度情報通信設備対応			-	3.0	1.00
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-
1.2 心理性・快適性		3.2	0.30	4.5	0.40
1.2.1 広さ感・景観	実習室の天井高さ3.7m、寝室の天井高さ2.7m	5.0	0.12	5.0	0.50
1.2.2 リフレッシュスペース			-		-
1.2.3 内装計画	森林保護を目的とした木材利用	3.0	0.88	4.0	0.50
1.3 維持管理		5.0	0.30		-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	塩害対策としてフッ素樹脂塗装による高耐候性塗装の適用	5.0	0.50		-
1.3.2 維持管理用機能の確保	清掃用具、掃除流しを各階設置	5.0	0.50		-
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.3</b>	0.30		<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50		-
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)	基準法の25%増しの強度を有する	4.0	0.80		-
2.1.2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30		-
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:SUS管、消火管:SGP管採用	4.0	0.20		-
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-
2.4 信頼性		2.6	0.20		-
2.4.1 空調・換気設備		1.0	0.20		-
2.4.2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-
2.4.3 電気設備		3.0	0.20		-
2.4.4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-
2.4.5 通信・情報設備	通信手段の多様化、機器の地上設置	3.0	0.20		-

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.6	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり			4.2	0.07	4.2	0.50	
1 階高のゆとり		寄宿舎階3.6m、専修学校階4.4m	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.07	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.86		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		既存建物に合わせた外観デザイン、建物配置	5.0	0.40		-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮		外構に活動のための空地を確保	4.5	0.30		-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		舞鶴市のイメージとしてのレンガ材を適用	5.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		敷地内緑地の保全	4.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		Low-Eペアガラス採用	4.1	0.20		-	4.1
2 自然エネルギー利用		太陽光発電パネル屋上設置	3.2	0.10		-	3.2
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.81	4.7	0.50		-	4.7
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	0.23		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			3.0	0.77		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水型衛生機器を採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.60		-	3.9
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		型枠用合板、造作用集成材、床張り用パーテイルボード、タイルカーペット、FSC認証木材採用	5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		FSC認証木材採用	5.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		木製造作家具、仕上げ木材は複合製品ではない	5.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		外皮の高断熱化を図っている 排出率91%	3.4	0.33		-	3.4
2 地域環境への配慮			2.9	0.33		-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33		-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-		-	
1 騒音			-	-		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-		-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.33		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外広告照明無し、ブラインド設置	5.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	